

令和6年度はこんなことをします

4月	● 維新[ISHIN] 48号発行 ● 開館30周年記念「一日だけの維新ふるさと館カフェ」
5月	● 維新演劇シアター〈創作歴史芝居〉公演:5/5 ● 歴史講座①(5/31、6/1)
6月	● 維新演劇シアター〈創作歴史芝居〉公演:6/16
7月	● 夏休み親子講座(小・中学生対象) ● 維新演劇シアター〈創作歴史芝居〉公演:7/21 ● おりがみあそび体験会(あさがお)
8月	● 教職員歴史講座(8/8、8/9) ● 維新演劇シアター〈創作歴史コト〉公演:8/18・25 ● おりがみあそび体験会(桜島) ● 歴史の質問、引き受けます(小・中学生対象、毎週水曜日)
9月	● 第17回「西郷隆盛をしのぶ維新ふるさと館書道展」(~10月) ● 維新演劇シアター〈創作歴史コト〉公演:9/15 ● 維新[ISHIN] 49号発行
10月	● おりがみあそび体験会(烏帽子と陣羽織)
11月	● 史跡めぐりバスツアー ● 維新演劇シアター〈創作歴史芝居〉公演:11/17 ● 歴史講座② ● おりがみあそび体験会(小みかん・文旦・桜島大根)

12月	● 維新演劇シアター〈創作歴史芝居〉公演:12/22 ● 維新[ISHIN] 50号発行
1月	● 維新演劇シアター〈創作歴史芝居〉公演:1/1 ● こままわしあそび体験会 ● 維新ふるさと館歴史シンポジウム(演題未定)2/23
2月	● おりがみあそび体験会(オッのコンボ)
3月	● 歴史講座③

※イベントなどは開催時期、内容等が変更になる場合があります。
※歴史講座やシンポジウムなどは申し込みが必要になります。

館内ギャラリーガイドをはじめます。
(令和6年4月~)

館内展示物の内容をより深く知っていた
だため、歴史解説員や特別顧問による
館内展示物のガイドを実施します。

〈実施時間〉毎週土日
①午前11:00~11:30
②午後14:00~14:30

〈受付人数〉先着10名程度

※歴史解説員及び特別顧問の都合により、休止する場合があります。
※日程、説明内容等については、維新ふるさと館ホームページをご確認ください。



イベント予告 令和6年度 おりがみ・こままわしあそび体験会

令和5年度のおりがみ・こままわしあそび体験会は、たくさんの方にご参加頂きました。令和6年度も下記の日程で開催を予定しています。

季節感や鹿児島県の文化・自然・風習等、おりがみやこままわしを通して楽しんでいただきたいと思います。詳しくはホームページをご覧ください。皆様の参加をお待ちしております。



上演スケジュール

●おりがみあそび体験会

2024年 7月27日(土)、8月24日(土)、10月5日(土)、
11月2日(土)、2025年 2月22日(土)

〈時間〉13:00~16:00

〈会場〉維新ふるさと館 1階 あそんでみやんセコーナー

●こままわしあそび体験会

2025年 1月11日(土)

〈時間〉13:00~16:00

〈会場〉維新ふるさと館 1階
ゆくさ おさいじやした通り特設コーナー

温故地新

ふる 故きを温ね、
たず 地元を新たに。

■歴史講座「明治の紫式部 税所敦子」を開催しました

3月8日(金)・9日(土)の2日間、「明治の紫式部 税所敦子」と題して、佐々木副館長兼歴史解説員による歴史講座を開催しました。全2回の講座を141名の方々に聴講いただき、大変好評を得ることが出来ました。

受講者からは「NHK大河ドラマの『光る君へ』と重なり、とてもわかりやすい講演でした」「置かれた場所で生きる姿がすばらしい。そして学び続けることの大事さを教えてもらいました。感動しました敦子さん」など様々な声が寄せられました。



今後も歴史講座をきっかけに是非、維新ふるさと館にお越しください。



(鹿児島市鴨池新町)

維新を歩く

川路利良は、天保5年(1834)、薩摩藩卒族(与力)川路利愛の長男として、鹿児島近在比志島(鹿児島市皆与志町)で生まれました。

16歳で兵具方与力となりましたが、士分ではない卒族であったことから大きな活躍の機会も得られないまま15年の年月を経た元治元年(1864)、剣術に優れていた川路は、禁門の変で功績をあげました。西郷隆盛、大久保利通の認めるところとなった川路は、江戸に出る機会を与えられ、洋式練兵と太鼓術を研究しました。

江戸遊学中、川路は江戸の庶民の暮らし(物価、治安、流行など)について調べ、私見を交えて書簡にして西郷に送りました。これらの書簡を読んだ西郷や大久保は川路の情報分析力に感心したといわれます。

戊辰戦争の功で鹿児島藩兵具奉行となった川路は、明治4年(1871)、中央政府に仕えることとなり、翌年、ヨーロッパ出張を命じられました。1年間フランス等の警察制度を研究した川路は、人民保護のために全力をあ

げるフランスのポリスの姿に触れ、この制度を日本に取り入れるべきと考えました。帰朝した川路の建言が基となり、明治7年(1874)東京警視庁が誕生し、初代大警視(警視総監)となりました。

その後、佐賀の乱、神風連の乱、秋月の乱、萩の乱などが各地で起こります。川路は、それらの士族反乱の動静を事前に探索させ、鎮圧に貢献しました。西南の役では、恩のある西郷と敵対することになります。しかし、警察制度改正の際の建言に書いた「警察は国家平常の治癒なり」の考えを重視し、鹿児島も事前探索させ、開戦後は別働第3旅団を指揮し、西郷軍と戦いました。

川路の像は、警察官のバイブル『警察主眼』にある言葉、「聲無キニ聞キ 形無キニ見ル」(表面的な事柄に流されず、奥に隠されたものを探し出す)を台座に刻み、県庁や警察本部を向くのではなく、県民を見つめています。



維新ふるさと館は 4月29日で30周年!

維新ふるさと館は令和6年4月29日で開館30周年を迎えます!ご来館くださった皆さま、地域の皆さま、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

今後も鹿児島島の歴史や魅力を世界に発信していきます。どうぞよろしくお願いいたします!

4月29日は入館料無料!

12:20から地下1階体感ホールで「おでかけランチタイムコンサート」も開催されます。



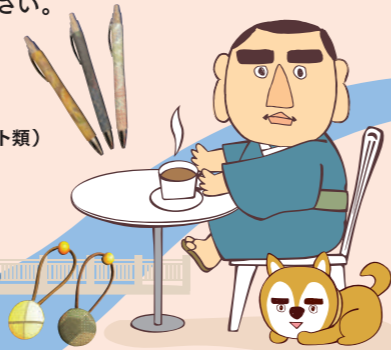
30周年記念
一日だけの維新ふるさと館カフェ in 甲突川リバーサイドフェス
4月29日(月・祝) 10:00~16:00
鹿児島市維新ふるさと館 玄関前(及びテラス)

維新ふるさとショップを飛び出して鹿児島ならではの商品をぎゅっと集めた「一日だけの維新ふるさと館カフェ～in甲突川リバーサイドフェス」を開催します。大島紬を使ったワークショップや甲冑体験もありますよ!

維新ふるさと館を楽しんだ後は甲突川沿いでコーヒーを飲みながらゆっくりお買い物をお楽しみください。

出店予定

- ネストコーヒー(コーヒー)
- le cadeaul・カドー(パン、キッシュ、タルト類)
- 桜島ミュージアム(椿油コスメ)
- 南橋商事(サツマイモ、加工食品)
- 大瀬商店(大島紬を使ったワークショップ)
- 戦国島津体験館よしとし郡議場(甲冑体験)



展示 常設展示 一部リニューアル

下記の史料を新しく展示に加えました。

①琉球使節渡来図(りゅうきゅうしせつとらいず)

この図は、天保3年(1832)の謝恩使一行の様子を、京都の版元が刊行したものです。琉球は中国に朝貢しながら、江戸上りと呼ばれる使節団を将軍のもとに派遣しました。将軍がかわった時の慶賀使と、国王がかわった時の謝恩使とがあります。この時の正使は豊見城王子でした。薩摩藩からは藩主斉興の代わりに家老の島津久風が同行しました。江戸上りは、江戸時代に18回行われ、宝暦治水で有名な平田靱負も、宝暦2年(1752)の慶賀使を引率しています。

②火箭(ひや／かせん)

火矢とも書きます。この火箭は、大隅半島根占の砲台に備えられ、鹿児島湾の守りに使われたものです。詰めた火薬に火を付けて発射し、相手の軍艦を焼くための武器でした。



③桜島燃記(さくらじまもえき)

安永8年(1779)10月、桜島が噴火しました。いわゆる安永の大噴火です。この記録は、垂水島津家の家臣伊地知季慶が天保6年(1838)に著したものです。爆発の凄まじさや、噴火後に逃げまどう人々の姿など、災害の大きさを伝えています。ちなみに、令和6年(2024)は、大正大噴火110年にあたります。「未の時過る比ほひ、桜島のいたゞき俄に地さけて、火の迸り出けるが、其はげしき事、石火矢てふ物を、いくらともなうつるべ放したらんが如く、ごぼごぼと響て、…」(『桜島燃記』から)

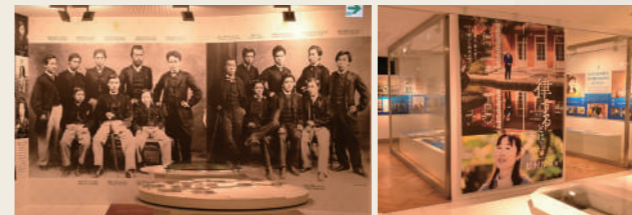
羽島から世界へ、日本の未来を切り開いた薩摩スチューデント

薩摩藩英国留学生記念館



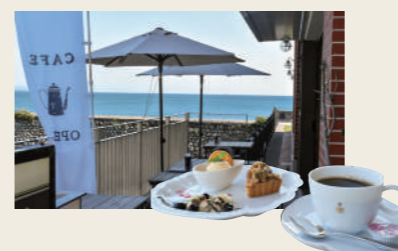
▲長沢鼎 雑記帳

▲カトラリーセット



▲留学生たち

▲特別企画展を開催中



下迫田 樹一さん

藩命により19名の留学生在が密かに羽島から未知の世界へ旅立ったのが約160年前、その羽島の地に「薩摩藩英国留学生記念館」が建設されました。

生麦事件を発端にして起きた薩英戦争、そして攘夷論根強い中での留學生たちの渡航、後の日本の近代化につながる軌跡が紹介されています。

お話しを伺ったのはいちき串木野市役所シティセールス課の下迫田樹一さん。今年の7月が開館10周年。秋には式典を行い、「長沢鼎」に関する企画展も開催予定とのこと。今まさにそれに向けて準備がされているところでした。

2階展示室、長沢鼎が17歳の頃に書き留めた自筆の雑記帳があります。異国の地で思い悩む様子がわかる貴重な資料を紹介してくださいました。その後の活躍にいたるまで、長沢はじめ19名の留學生たちの学ぶ姿勢や努力には鹿児島人として、日本人としてとても誇らしく感じました。

現在、特別企画展「律するとは?—海から日本を見た男—松村淳蔵展」が6月24日まで開催中。1階のカフェでは野菜たっぷりのスパイシーな手作りカレーやスイーツセットが人気。羽島の海を眺め、薩摩スチューデントに思いを馳せながら一緒にお楽しみください。

■薩摩藩英国留学生記念館

※「薩摩藩英国留学生記念館」と「鹿児島市維新ふるさと館」の両施設を利用される方は、それぞれの入館券を提示すると団体割引料金になります。

〈開館時間〉10:00~17:00

〈入館料〉・大人(高校生以上) 300円
・小人(小学生・中学生) 200円 ※未就学児は無料

〈休館日〉火曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日~12月31日

〈住所〉鹿児島県いちき串木野市羽島4930番地

〈TEL〉0996-35-1865

イベント 歴史シンポジウム開催

1月28日(日)サンエールかごしまにて、「維新ふるさと館歴史シンポジウム」を開催しました。令和5年(2023)は薩英戦争160年、令和6年(2024)は開成所設立の160年の年に当たることから、「薩摩よ、イギリスに学べ〜薩英戦争、開成所設立、薩英交流への道〜」をテーマとしました。

第1部の基調講演は、尚古集成館館長の松尾千歳氏に「世界史の中の鹿児島〜薩英戦争から開成所設立まで〜」と題してご講演いただきました。

第2部のシンポジウムでは、基調講演をいただいた松尾千歳氏・山崎美智子氏に、維新ふるさと館特別顧問の肥後秀昭氏を交え、「西欧の科学技術・制度の吸収」などのテーマを、佐々木幸男副館長兼歴史解説員がコーディネーターとなり、楽しいトークを繰り広げました。

参加者の皆様から「日本国内だけでなく世界的な視野で見ると薩摩藩の動きが良く判りました」「薩英戦争での薩摩の奮戦がイギリスの対日方針に影響を与えていたことを理解できて興味深かった」など様々なお声をいただきました。

今後も「分かりやすく、楽しく」をお届けできますよう努めてまいりますので、次回もたくさんのご応募お待ちしております。

今度も「分かりやすく、楽しく」をお届けできますよう努めてまいりますので、次回もたくさんのご応募お待ちしております。



▲第1部 松尾千歳氏による基調講演